

## 5 明倫短期大学新卒歯科衛生士の就業環境の変化

本間和代

明倫短期大学 歯科衛生士学科

keywords : 明倫短期大学 新卒歯科衛生士 就業環境

### はじめに

平成9年4月に本学が開学してから29年3月で20周年を迎える。その間、歯科に対する社会的ニーズも多様化し、歯科衛生士の職域・業務内容も拡大されてきた。これを受け、養成機関の修業年限も3年制に移行し、教育内容も充実してきた。現在、医科・歯科連携、保健・医療・福祉の連携強化に伴い、歯科衛生士の需要が高まってきている反面、高校生人口の減少期に入り、歯科衛生士の育成も厳しい時代を迎えている。このような社会的背景の中で、本学新卒歯科衛生士を取り巻く環境の変化に注目した。

### 対象および方法

対象：平成10年度から平成27年度に本学を卒業した新卒歯科衛生士を対象とした。

方法：毎年度本学に寄せられた求人票および歯科に関する国家統計調査をもとに、新潟県における①就業歯科衛生士数、②医療従事歯科医師数、③求人状況、④新卒歯科衛生士の給与総支給額ほかについて調査した。

### 結果および考察

本学歯科衛生士学科1回生が卒業した平成11年3月から28年3月までの18年間について調査した結果はつぎのとおりである。

#### 1) 新潟県における就業歯科衛生士数の推移

平成10年の1,604人から26年の2,555人までに951人増加し、1年に平均約60人増となった。この間、3年制移行に伴い、卒業生のいない年も含まれている。

#### 2) 新潟県医療従事歯科医師数の推移

新潟県における医療に従事する歯科医師数は、平成22年に2,025人のピークがあったものの、平成10年の1,908人から平成26年の1,982人までを比較すると74人増加した。平成26年時点で歯科衛生士は歯科医師の約13倍の増加となっている(図)。

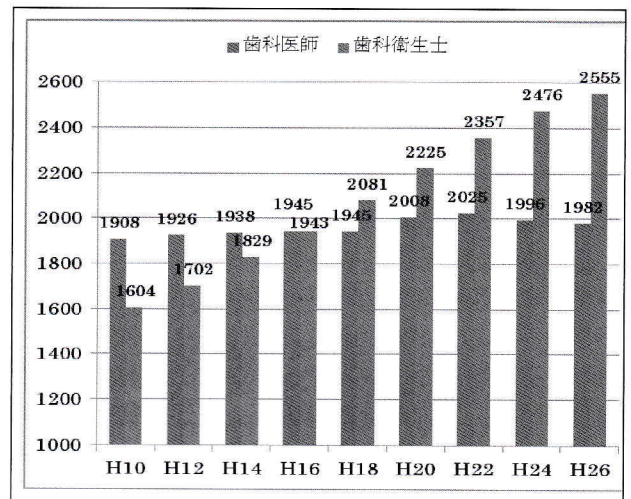


図 新潟県における医療従事歯科医師数(左側)および就業歯科衛生士数(右側)の推移

#### 3) 新卒歯科衛生士の求人状況の推移

本学への新潟県内からの歯科衛生士求人数は、最高が平成18年の243人、最低が平成12年の146人で97人の差があった。16・17・18・20年に求人数が急増したが、これは、平成18年度に本学が3年制に移行したことに伴い19年に卒業生が輩出されないことを見据えてのことと推測される。

#### 4) 新卒歯科衛生士の給与総支給額の推移

新卒者の1か月の給与総支給額は平成10年が156,737円、27年が177,776円で、21,039円の増であった。増加の傾向は新潟県内5地域において、ほぼ同様の傾向を示したが、年度や地域により求人数にばらつきがあることから、単純に比較することはできない。

### まとめ

今後、求人に応えうる歯科衛生士の数と質を確保するためには、魅力ある職業として高校生等に発信していくことが重要であり、専門職として遣り甲斐のある職場環境、人生設計の立てられる給与体系、老後を見据えた福利厚生等、解決すべき課題が多いと考える。